

令和4年度 香南市『人・農地プラン』検討委員会 議事録

- 日時：令和5年2月20日（月） 13：30～14：30
- 場所：香南市役所 6階 会議室 604/605
- 参加者：委員 12名
小松靖生、石丸典男、白石浩一、矢野広章、野村英希、楮佐古正志、西山忠宏、谷間久昭、松村一恵、高橋牧子、溝渕洋介、北節子（検討委員会の名簿順）
事務局（農林水産課）6名
澤田卓、松村進一郎、久武正和、児玉亮太、清遠大地、松木克彦
- 目的：活動実績と計画等を説明し、委員から質問や意見を得ること
 1. 令和4年度の活動実績
 2. 令和5年度の活動計画（地域計画の策定方針）
 3. 『人・農地プラン』上の農業担い手の状況
 4. 委員の新任/退任の説明、次年度の委員就任依頼
- 内容：
 - 委員会の成立確認
 - ◇ 委員の出席者は12名であることより、本委員会は開会要件を満たしたことを確認した。
 - 令和4年度の活動実績報告
 - ◇ 活動方針～活動内容（①農業インフラ改善活動、②農業研修、③『デジタル町一丁目』を利用した農作作業人材の確保、④農業補助金制度のハンドブック）の説明を行い、委員から理解を得た。
 - ◇ 矢野委員より須磨地区の場所の確認があり、徳王子の一部の地区である旨を説明した。
 - 令和5年度の計画（地域計画の策定方針（案））の説明
 - ◇ 『人・農地プラン』を修了し、令和5年度から『地域計画』移行することを説明した。また、地域計画の要件に沿って、地域計画を策定するという方針案を説明し、委員から理解を得た。
 - ◇ 石丸委員より、目標地図を作るに際しては、『現状で小さい農地を持っている人は農地を売って、集積に協力するようにするのか？』確認があった。農地は基本的に所有者のものであり、処分権は所有者にあるため、協力いただけるならそうしていただくし、協力が得られなければその地は例えば放棄地になる。自治体としては、農地を農地のまま存続させたいと思っているが、今後の地域の話合いの中で、決めて行っていただければよいとのスタンスである、との回答を行った。
 - 『人・農地プラン』上の農業担い手の状況の説明

- ◇ 令和4年3月末から令和5年3月末（見込）の間に、『人・農地プラン』の中心経営体の総数は6増2減で402経営体から406経営体となった。
 - ◇ 増加要因としては、農業規模の拡大及び集落営農組合組織の登録が背景である。減少要因は、他集落から地元に入ってくれていた担い手が撤退したケースである。
 - ◇ 松村委員から、地元で担い手が居ない場合、他地区の担い手を地元に来てもらうようになるが、農機具の運搬や保管面で他地区の担い手は苦勞する状況が有る旨の説明が有った。そうした担い手からの要望も汲み取ることも担い手の確保上、検討していくことが必要ではないかとの示唆をいただいた。
- 委員の新任/退任、次年度の委員就任依頼
- ◇ 検討委員の年度内の退任、新任者を説明した。
 - 退任：藤村様、立仙様
 - 新任：野村様（香美地区青壮年部）、西山様（地域農業再生協議会）
 - ◇ 各委員の専門分野を令和5年度からの地域計画の策定に向けて活かして頂きたく、委員に継続頂くことを了承いただいた。また、副会長職は高知県農業共済組合東部支所長の楮佐古様に継続依頼し、了承を得た。

以上